実感に根ざした教育をめざして
—— 父母・教師・児童が一体となって進めた生命尊重の授業（道德）——

足利市立毛野南小学校 家 住 伸 司

I 基本的な考え方（毛野南小学校教育計画をうけて）
(1) 父母を対象とした公開授業は、学校教育をより正しく理解していただく手段の一つである。
   本校としては、4月の総会時そして、7月・12月・2月と、毎学期1回の計4回を原則として授業公開日として設定する。
(2) 毎年2学期の公開授業の教科は、隔年で道徳・図画指導を展開し、学校で行う道徳教育や
   同和教育についての見識を深めるとともに、家庭における道徳教育や正しい同和教育への啓
   覚の機会とする。

※一部抜粋

II 三者一体の授業と生命尊重をとり入れた意図
過去、北中学校において文部省指定研究「道徳的実践力のある生徒の育成」の発表を見る機
会をえた。各学年の2クラスの公開授業があり、その中から私は思うことなく1年5組、松崎恵
子教諭の授業を参観させていただくことにした。
その理由は以下と述べた理由であるが、
① 目標が「命の尊さ」であること。
② 長き間、高学年担当であり中学生とはいえ、その思考段階に余り大きな隔たりがなく見
   られそうであること。
③ 松崎恵子教諭とは、西小学校で一緒に勤務したこと。
    等があげられる。授業は予期した通り、北中学校の能力を結集し研究し尽くされた味わい深い
    内容であった。生徒と教師のやりとりを聞きながら、急に3年前の「教え子の自殺」という
    忌まわしい思いが脳裏をかすむ。後半の授業はまるで夢遊病者のようだった。教え子とはいえっ
    ても彼女たちに直接的なつきたあげではあったが・・・。
「もし、小学校でこれだけの授業にあえたら・・・。」
「もし、仲間と一緒に 命 を語り合う機会を恵まれていたら・・・。」
「もし、母の無償の愛に気づいていたら・・・。」
「もし、生命は自分一人のものではないと考えられたら・・・。」
    そう思うと、改めて1時間の授業の重みを痛感せずにいられなかった。
    このことがきっかけとなり、授業参観には生命尊重を取り上げることにした。授業参観と言
    っても、旧態依然とした「参観だけの参加」だけではなく、意見や考えを授業の中で発表し
    てもらい、ともに考える場を設定しようとかえた。
    それは、次のような考えからである。
① 次段家庭教育の中で、ことあるごとに「生命の大切さ」について、話さなくてはならな
二 各種展開までの計画と手順

(1) 指導案の作成
   ① 特に、親の参加場面の決定と、内容の選定。

(2) 児童の意識調査
   ① 一番大切なものは何か。
   ② 死んでも食いたいと思ったことがあるか。それは、どんなときか？
   ③ 自殺することについて。

(3) 父母の「私が子に対する意識調査」
   ① 我が子が生まれて、初めて胸に抱いたときの気持ち。
   ② 我が子の命が、危機にさらされたときの思い。

四 児童の意識調査とその結果

(1) 児童の意識調査の形式と内容

<table>
<thead>
<tr>
<th>1</th>
<th>貴方にとって、一番大切なものは何ですか。</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>2</td>
<td>貴方は、今までに死にたいと思ったことがありますか？</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>(1) ある</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>(2) ない</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>(1)と答えた人に聞きます。それはどんなときですか。詳しく書いてください。</td>
</tr>
<tr>
<td>3</td>
<td>自殺することは許されませんか。</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>(1) 絶対にいけない。</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>(2) 理由によっては仕方がない。</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>その理由を聞くせてください。</td>
</tr>
</tbody>
</table>
(2) 児童の生命に関する意識調査の結果

今までに何らかの理由によって、死にたいと考えたことがあると答えた児童が、50％弱もいたことには大きな驚きを感じざるを得なかった。そればかりか、その原因のほとんどが家族関係の中で生じた問題である。学習のこと、通勤のこと、兄弟関係のことがほとんどを占めている。次に続くのが、苦しさ・辛さからの逃避、そして自己嫌悪という順列であった。

※ グラフの見方
上から 6の1 35名
6の2 36名
学年全体 71名

1. あなたにとって、一番大切なものは何ですか。

<table>
<thead>
<tr>
<th></th>
<th>50%</th>
<th>100%</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>家族</td>
<td>24</td>
<td>58</td>
</tr>
<tr>
<td>命</td>
<td>41</td>
<td>42</td>
</tr>
<tr>
<td>その他心・意志夢・友等</td>
<td>29</td>
<td>0</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>14</td>
<td></td>
</tr>
</tbody>
</table>

2. あなたは、今までに死にたいと思ったことがありましたか。

<table>
<thead>
<tr>
<th></th>
<th>50%</th>
<th>100%</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>ある</td>
<td>25</td>
<td>47</td>
</tr>
<tr>
<td>ない</td>
<td>25</td>
<td>53</td>
</tr>
</tbody>
</table>

-65-
あると答えた人に聞いて。それはどんな理由からですか。

<table>
<thead>
<tr>
<th></th>
<th>50%</th>
<th>100%</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>家族関係</td>
<td>20</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>学習・連携・兄弟</td>
<td>27</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>苦しみ・辛くから逃げる</td>
<td>28</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>自己嫌悪</td>
<td>13</td>
<td></td>
</tr>
</tbody>
</table>

3 自殺することは許されませんか。

<table>
<thead>
<tr>
<th></th>
<th>50%</th>
<th>100%</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>いいえ</td>
<td>-3</td>
<td>-97</td>
</tr>
<tr>
<td>理由によって仕方がない</td>
<td>0</td>
<td>-100</td>
</tr>
</tbody>
</table>

なぜ、許されないのでしょうか。

<table>
<thead>
<tr>
<th></th>
<th>50%</th>
<th>100%</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>命は大切かけがいのない命</td>
<td>-25</td>
<td>-52</td>
</tr>
<tr>
<td>親不思惑</td>
<td>-24</td>
<td>-47</td>
</tr>
</tbody>
</table>

V 父母
(1) 父方
道明寺
きくた

1 うち

2 うち


(2) 我が

1 我が子を

お腹の中にあるかという
我が子を胸に
おしくふわ。
V 父母の意識調査とその結果

(1) 父母の意識調査の形式と内容

道德授業「生命の尊重」の資料に使いたいと思います。どうぞ、できるだけ多くお書きください。

<table>
<thead>
<tr>
<th>1</th>
<th>わが子が生まれて、初めて抱いたとき、どんな気持ちでしたか。</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td></td>
<td>具体的な気持ちを書き入れてください。</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
</tr>
</tbody>
</table>

<table>
<thead>
<tr>
<th>2</th>
<th>わが子の命が危機にさらされたとき（育ってきた病気やけがをしたとき）どんな気持ちがしますか。</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td></td>
<td>具体的な気持ちを書き入れてください。</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
</tr>
</tbody>
</table>

(2) 我が子に対するアンケートの結果

(回収率 64％)

1 我が子が生まれて、初めて抱いたとき、どんな気持ちでしたか。

お腹の中に居る時は胎動で伝わる温かい心優も産生を迎えて身2つになった時、五体満足であるかという不安と共に産声を聞いた瞬間にそれまでの苦痛や不安も消えてしまいました。初めて我が子を抱き抱いた時の感动は何にも倣しないと見えよりももしく神秘的感動だと思えました。愛おしくふわふわとした顔かたちは別として本当に天使のように感じました。

父母氏名（M．I．）

親になったという実感を喜び……きっとその時はやさしい気持ちでいっぱいだったと思います。その反面、これから無事この子を育てなければならない不安……このアンケートでその当時の事を思い出してみましたが、あの頃は子供に対して本当に純粋でした。健康であれば何もいらない
思っていましたが、今ではそれが当たり前になり、少しずつ気持ちの上で変わってゆく自分に気がつきます。でも色々考えると変化するからこそ育ててきることかもしれません……親離れする時期がくるまで（もうきているかもしれませんが）子供に必要とされている今をもっと大切にしなければと思いました。

父母氏名（M. M.）

何とも言えない感動でした。大人になるまでは夫婦でしっかり育てなくてはと思いました。

父母氏名（K. O.）

生まれて2日目に、新生児室で寝ているわが子をガラスこしに見ました。長い指を伸ばして、パンジーをしている姿を見て、とても元気のある子だと思い、うれしそうに、安心した気持ちでした。それから数時間後に、わが子を抱きました。小さくてやわらかく抱いているのが怖いようで思わずぎくしょく抱いてしまいました。そして、これから先のことを考えていた胸がいっぱいになってしまいました。

父母氏名（S. S.）

小さな小さな口で無心にお乳を吸っているわが子を抱いていると、心の奥深く、暖かいものに体中が、つつまれているような幸せを感じ、今までに味わった事のない充実した、満たされた気持ちになった事をおぼえています。子供は、何にものにも変わりがたい、本当に可愛い子宝物です。

父母氏名（T. S.）

とても小さくて、こわそうで、かわいくて、かわいくて、かわいらしいのに力が入ってしまって、私をまとっていたように目をあげて、私がお母さんがいるのが、わかったかのように見つめられた時は、今でもはっきり思い出しますが、とても感動しました。1日じゅうだっこして顔を見せていたほどかわいくてうれしかったのをおぼえています。

父母氏名（K. K.）

我が子の命が危機にさらされたとき（育ててきて病気やけをしたとき）どんな気持ちがしたでしょうか。

とにかく私を心がかけてあげたい。そして少しでも早く苦痛を取り除いてあげたいと思います。今は割合丈夫になりましたが、毎月よく病院のお世話になりました。

一度、病気の後、一日中乳を飲まず、寝たきり起きなかった時など、生きた心地もせず、つきっきりでした。ようやく水を口にした時は顔が止まらなかった事も記憶しています。

父母氏名（M. I.）
幼児期、病弱だったので、入退院を繰り返す事になってしまった。病室から抱っこして廊下へ、そして検査室へ、その時看護婦さんに渡すともうすごい泣き声に変わり、そのままドアが閉まる。部屋の中から聞こえてくる泣き声は、確実にいつもとは違うものである。もろもろじめられれているわけではないが、先生や看護婦さんを恨んだ事もあった。何もしてあげられない私としては、一歩でも近くにいたくて、ドアにはりついていた。

父母氏名（K. S.）

出来ることなら、変わってあげたい。この気持ちで胸が一杯になります。つい最近、生体肝移植をうけた一男の子供さんと彼子を置替えれば、涙を流さずにはいられない。こんな気持ちで胸が詰まる思いです。

父母氏名（K. Y.）

かぜをひいて熱がなかなか下がらない時、車のドアに手の指をはさんでしまった時、嘔吐して点滴をすると言われ、なかなか入らないで、たまらない気持ちになった時、みんなにかぶれて、顔つきまで変わってしまってしまった時……。いろいろありました。神様にお祈りするような気持ちで、その時々を夢中でいろいりしたように思います。子供の苦しみは、親にとっては気が狂うような辛い事です。

父母氏名（Y. I.）

3才6ヶ月の時、軽い肺炎にかかり、1週間入院をした。その時、検査と点滴などで泣いていた子供の声がかわらない。代われるものならかわってやりたいと思い、涙が出た。

父母氏名（K. I.）

乳母車から落ちて頭にキズができ、血がたくさん出るので、急いで医者さんに見てもらう、早く手当てをしました。痛い思いをさせて「ごめんなさい」という気持ちと辛いケガですけどよかったと思う気持ちでいっぱいでした。

又、たびたびの発熱でうっかりした時などは、愛情をそそぎ、早く復活する様願いました。

父母氏名（T. I.）
三者一体（父母・教師・児童）となった道徳科の学習の実践（授業記録）

平成元年12月7日（木）　第5授時　
6年2組　男19名　女17名　計36名　
指導者　家住　伸司

1　主題名　生命の尊重（III-③）
2　資料名　絶望の果てに（NHK　特集ビデオ「愛　深き渊より」の日記）
3　主題設定の理由

（1）ねらいとする指導内容について

III-②は「生命がかがえがえのないものであることをしり、自他の生命を尊重する」ことをねらいとしている。小学6年生という時期は、性格期の初期にあたり、男女とも心身がアンバランスであり、気分的に不安定で喜怒哀楽の激しい時期である。従って、その日の気分の激しさ、友人に誘われるままに行動をおこし、自分の考えや価値観に反するものを排除したり、親には、掛け替えのない生命を傷つけたりすることもある。

また、現代社会は甘やかの社会と言っても過言ではないほど、生きるための試練の場や機会が少ないとあって、子供は弱く育ちざるを得ないことも事実である。

障害を持つ子の親は「壞常児だったら」という、事故で子供を亡くし育った親が「生きてきだせいてくれたら」というように、失って初めて失ったものの価値に気づくが、無事に生きている間は、生命の在り難さ、素直さに気づくことが少ない。

しかし、生命とは、この世にたった1つしかないものである。しかも再び繰り返すことのできない1回限りのものである。そこで、星野富弘さんの日記を通して、人間は他の人々に支えられて生きていること、自分自身の命は自分だけのものではないということに気づかせ、生命を尊重する態度を養わせたいと考え研究を設定した。

（2）ねらいとする指導内容にかかわる児童の実態について

前ページ、4　児童の意識調査とその結果を参照

4　資料について

（1）あらすじ

資料は、星野富弘著「愛　深き淵より」の一節。1973年11月の日記である。事故により首から下が全く動かなくなってしまった筆者は、何年も病院のベットに仰向けに寝たままの生活である。三度の食事は母に口にされてもらうのだが、ある日のこと、母の手元を奪って、スプーンの汁を筆者の顔にこぼしたのをきっかけに、いままでつもっていた心を母にぶつける。だが、筆者の顔にベッドが止まると、それでも母はやさしい手で筆者の顔を押さえゆるのである。その日から、筆者は再び筆を取り、画を描き始めたのである。

（2）読み取りの視点

体育教師だった筆者が、けがをして身体が思うように動かなくなり、苦しみのどん底で投げやりになり、生きる意志を失いつつある姿と、母親の愛によって再び前向きに生きようとして始めた筆者の気持ちの変化を読み取らせ、命の尊さと自分の命を支えてくれる人がいるこ
とに気づかせたい。
5 本日のねらい
生命は、自分一人のものではないことに気づかせ、一日一日を大切に生きていきこうとする心情を養う。
6 展開（授業記録）
7 評価
自分の命は自分のだけのものではないことに気づき、一日一日を大切に生きていきこうとする心情が養えたか。
8 板書計画

星野友弘さんの記録
うるせえ……「ショック」とは、どんな気持ちで言ったのか
死んでしまったほうが母に迷惑を掛けない
こんな状態で生きていても仕方がない

星野友弘さんの記録
うるせえ……「ショック」とは、どんな気持ちで言ったのか
死んでしまったほうが母に迷惑を掛けない
こんな状態で生きていても仕方がない

9 資料
VTR
読み物資料
アンケート（児童・父母対象）
学習プリント
フラッシュカード
星野友弘 詩画集カレンダー
星野友弘著の本・絵
星野富弘

星野さんが、また絵を描き始めたのはどんな気持ちからだろうか。

自分

今まで、自分の命をどのように感じてきましたか。

11 お読み資料

「絶望の果てに」

1973年11月
手が動かないので食事は三度三度母に口にいれてもらっていた。仰向けに寝たままだから、汁は大きなスプーンで口に流し込んでもらった。体を動かすことがないのと、病院の食事時間が朝8時、昼12時、夜5時と比較的短いため、ほとんど腹が減らなかった。腹の減らない時の食事は、口のそばにあってくれるから仕方なく口を開くようなもので、苦痛ですらあった。そんなとき、少しでも顔にこぼされたりすると、それを口実に食べるのをやめてしまった。

やはり食べたくない食事のときのことだった。母の手元は震えてスプーンの汁を私の顔にこぼしてしまった。わずかなことだけれども、カットしていた、そのとたん顔を覆っていた母がいきなり爆発してしまった。爆発と言っても、どうしようもないほどにふくれあがったりだとも、殺されると絶望しのぎを母しかいない。

私は口の中の御飯粒を母の顔に向けて吐き出して怒鳴った。
「チキショウ。もう食べねえ、くそばば」

散らかった御飯粒を拾い集めながら、母は泣いていた。
「こんなに生きるために、くそばばあなんて言わられたら……」
「うるせえ。俺なんかどうなったっていいんだ。座んでくれなきゃ良かったんだ、チキショウ。」

-72-
母は涙をふきながら、自分の食事に出て行き、しばらく帰ってこなかった。
一度聞いてしまったイライラの出口は、用意に閉じることができず、母がゆっくり帰ってきても、トゲのある言葉で母にあたった。母もようほど複数だったのかしらと口をきかなかった。
ハネがうるさく顔の上を飛び回っていた。まるで私の手が動かないのを知っているかのように、いくら顔を振っても離れはすぐに私の顔にたかった。頬をこっくっていた母が、とうとうがたまりかねてハネ叩きを覗いた。足のへんに叩く音がして一匹取ったようだったが、少しすると、また別のハネが現れて、私の顔に止まった。母がハネ叩きを振って叩こうとしたが、気を取っ引してハネ叩きを左の手に持ち替えて、右手で私の顔のハネを叩く構えをした。そして母の手は叩くというよりもそっと触れるように私の顔を押さえた。もちろんハネはにげてしまっただけ、ハネの止まっていた顔に母のしみた手のぬくもりが残った。ザラついていたけれど、柔らかな母の手だった。母の触触は、私の顔からいったら全体中に広がっていった。
あれほど前の言葉を浴びせた私を母はきっと憎んだに違いない。しかしその憎みの中でも、母は私の顔につきまとうハネを見過ごしてはいられなかったから、ハネ叩きで私の顔を叩くこともできなかった。私の顔に御飯粒を吐きかけた私の、顔のハネを母は手でそっと取りさえようとした。
私は思った。これが母なんだと。私が教えてくれた、たった一人の母なんだと思った。
この母なんて、私は生きられないのだ———。
その日から私はしばらく止めていた絵を書き始めた。母が左手にハネ叩きを握り、右手を振り上げて私の顔に止まっているハネを取ろうとしている絵だった。

—73—
<table>
<thead>
<tr>
<th>過程</th>
<th>学習喚起要因</th>
<th>学習の流れ</th>
<th>時間</th>
</tr>
</thead>
</table>
| 導入 | 喚起要素①  
○作品の素晴らしさにふれさせどんな人が描いたのかという関心を高め、ビデオへの導入を図り、重視障害のため筆を口にくわえて描いた絵である事への驚きから、もっと詳しく知りたいという学習意欲を喚起したい。 | 1 絵を見て話し合う  
2 ビデオを見て星野富弘さんがについて知る | 10 |
| 入料 | 喚起要素②  
○語句やその意味の抵抗を少なくすることにより、「気持ちを考える」学習に誰もが参加できるよう範囲とし、意欲喚起としたい。 | 3 資料を読む | |
| 展開 | 喚起要素③  
○自分の考えを発表しやすいよう、時間をとって作業用紙に簡単にまとめて作るとともに、機関巡視の中で発表依頼もする。 | 4 星野さんの気持ちを考え話し合う  
5 星野さんの気持ちを考え話し合う | 15 |
<p>| 開放 |  | 6 今までの自分を振り返り、作業用紙に考えを書く | 10 |</p>
<table>
<thead>
<tr>
<th>時間</th>
<th>主な発問</th>
<th>予想される児童の反応</th>
<th>指導上の留意点</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>10</td>
<td>うるせえ。俺なんだからうなったていいんだ......チンショウ......。</td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>うなりたてる星野さんはどんな気持ちでいたのだろうか。</td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>15</td>
<td>そんな目暮百楽になっていた星野さんが、なぜ絵を描こうなんて気持ちになったのだろうか。</td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>10</td>
<td>今まで自分の命をどのように感じていたか。作業用紙に考えて書こう。</td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>○こんな身体では、生きててもしょうがない。</td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>○動けなくてつらい。</td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>○いろいろしている。</td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>○生きることに投げやり</td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>○変わらぬ母の、子に対する思い。</td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>○母のやさしさに打たれた。</td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>○母を見て、生きなければ申し訳ない。</td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>○筆者の気持ちが伝わるよう、心情を込めて朗読する。</td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>○強化する場面は、「つぶやき」を入れながら、その時の気持ちを考えていく布石とする。</td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>○「気持ちの伝わる文」「もう少し、深く読んでみたい文」にはサイドラインを引きながら聞くようにする。</td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>○絶望のどん底でやけになってい る星野さんの気持ちに、より強く共感させ、「母の無償の愛」の素晴しさに気づかせるとともに、 その深さに感銘させるための布石としたい。</td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>○母の「無償の愛」にふれて、再び生きようと立ち上がる星野さんの気持ちを感じ取らせたい。</td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>○苦しうこと、辛いことから、や やもすると簡単に死にたいと思った が、命は自分だけのものだと思っ ていた自分に気づかせたい。</td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>援助指導</td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>---</td>
<td>---</td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>○怒鳴られた母の気持ちや、ヘア叩きを使わず頭のヘアを追ってくれた母の気持ちに焦点をあて、そのことに対する星野さんの思いを考えさせる。</td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>声起要素③</td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>○星野さんの母の思いも、自分を取り巻く両親、家族、友人の思いも全く変わらぬことに気づかれ、「命は自分だけのものではない」とことを認識させる価値の関連化を図る。</td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>表示し話し合う</td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>7</td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>我が子が生まれた</td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>8</td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>とき、命が危機にさらされたときの父母の思いを聞く</td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>9</td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>教師の話聞く</td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>10</td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
</tbody>
</table>
みんなの父母が子供に対して、どんな気持ちで産み、育てているのか聞きせてもらおう。

| | ○父母の事前の意識調査を撰羅したプリントを児童に配り、事前にお願いしてある父母に心情をこめて朗読してもらう。
| | （各項目について5名程度）
| | ○命は自分一人のものではないこと、かけがいのないものであるから中学生に向けて、苦しく辛いことも多くなるが、そのような時は体験の多い父母や信頼できる先輩に相談しながら、解決していくように勧める。
| | ○ 同和教育上の配慮事項
<table>
<thead>
<tr>
<th>教師のはたきかけ</th>
<th>児童の反応</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>（資料「絶望の果てに」を範読）</td>
<td></td>
</tr>
</tbody>
</table>
| ○ 「うるせえ、俺なんかどうなってい
いんだ。……チキショウ……」 |
| がなりたてる星野さんは、じん気を持ち
ていたのだろうか？ |
| （範読中、2・3名のすずり泣き） |
| ○ 生きていてもしようがない。 |
| ○ もう、こんな生活嫌だ。 |
| ○ ヤケになってしまっている。 |
| ○ こんな身体になってしまった自分を、どうし
ていいのかわからない。 |
| ○ 荒んでくれた母に申し訳ない。 |
| ○ 言ってはいけないことだと知りながらも辛く
悲しい気持ちのやり場がなく、母にあたってし
まった。 |
| ○ こんな自分になってしまって、母に迷惑を掛
けて締めている自分が腹立たしい。 |
| ○ そうだよね。体育教師になるはずスポー
ツマンだった自分が、身動きできなかったかな
って思ったのだが、もう、どうにでもなれ。』とヤケに
なっても仕方のないことだよね………。
| （児童の反応をうかがう） |
| ○ でもさ、もう、ヤケになって「俺なん
かどうにでもなれ」と思っていた星野さん
がなぜ、どんな気持ちから、しばらく止め
ていた顔を描く気になったんだろうね。
| （ほとんどの児童が音をうなだれて無言のま
ま。数秒が過ぎる） |
| （重苦しい空気が教室に流れ、声を立てて泣
き出す子もあらわれる） |
| ○ 紋を描く楽しさが忘れられないのでは。
| ○ このままでは、母に申し訳ない。 |
| ○ こんな自分でも、できる事をやってみよう。 |
| ○ こんな身体になって、母にあたっている自分
なのに、がなれても一生懸命に尽くしてくれ
る母に申し訳ない。
（半数くらいの子が目を赤くして、意見の言
える状態ではない。） |
| ○ そこの母の「俺
も俺
負け
だね」 |
| ○ どこ
は考
さ」もい
で、
用紙
|
（泣くことは、ちょっと恥ずかしいことで
はないよ。落ち着いたら、また発表して
ね。）

○ すねていても自分の身体は元には戻らない。
自分の限界まで挑戦してみよう。

○ 自分だけの身体ではない。俺には、母がついて
いてくれる。できることで恩返しをしたい。
（後ろで観察している父母も、すずり泣きが
始まる。）

○ そうか。ヤケになっている自分に対する
母の思いが星野さんの傷の気持ちや、「俺だけの命ではない。こんなにしてまで
俺のことを心配してくれる母がいるんだ。
負けてたまるか。」という気持ちにさせた毎
だね。

…………間において…………

○ ところで、星野さんは、健康でいたとき
はとても見なかったであろう「命の大切さ」を、身体が動かなくなったつづくお
もいしらされたんだけど、みんなは今まで
で、自分の命をどう感じていたのか、作業
用紙に書いてみてくれ。

※ 子供の発表は別紙に

○ その通りだよ。今まで自分の命は自分だ
けのものと考えていたようだが、それはと
んでもない間違いで、自分の周りには自分
を心配して見守ってくれている父母をはじ
め、たくさんの人々がいるんだよね。だか
ら、せっかく親からもらった命を自分から
捨てる自殺なんて許されることではないん
だよ。

…………間…………

○ みんなのお父さんやお母さんが、どんな
思いで我が子を産み、我が子を育てているの
か聞いてみようね。

…………教訓の話は略…………

（指名で父母に朗読をしてもらう。）
○ 最初の2〜3名の方は、スムーズに読んでく
れたが、その後の朗読は父母のすずり泣きや
子供の泣き声に、声を詰まらせたり、途中で読
めなくなってしまった。子供たちも、目の真っ
赤にして聞いている様子を見て、これ以上は残
酷と思いやめた。）
⑨ 本校学習意欲を大切にする指導過程}

学習段階への具体的位置付け

学習過程 | 学習意欲を発展させた基本的手立て
---|---
1. つまみ (導入段階) | ○ geht具体的な事案・事件による記述や提示
   ○単元導入 | →単元全体をつらねくような追求の柱となる内容やねらいを含むものが多い。
   A ブラックボックスの手法
   ○驚き、疑問、当惑等意思がでるやさしい考えを起こし、追求しようとする意欲を高める。
   B 概念導入の手法
   ○子どもたちがわかると思うことになるので、事案についてつかせたり発表させたりしながら、不完全であることを知識面でさりげなく教える。
   再度見直し、追求しようとする意欲を高める。
   ○単位時間の導入 | →子どもの学習を大切にしながら前後のつながりをいく。
   ○A、Bの手法
   ○C、前後のまとめの段階での子どものご意欲追求、意欲の再生、(まとめの段階の事項や提示の再構成)

2. 確かめる (追求段階) | ○フリータイムの設定
   ○同じ考えをもと友達と活動する場
   ○個人やグループでの考えを生かし自由に活動する場
   ○追求活動や導入段階での提案や考え等の情報を交換できる話し合いの場
   (活動やねらいの修正・深化発展)
   ○再実験・再観察の場 (ねらいの修正, 追求活動の深化・発展)

各学年での意欲を育むための学習訓練要素

学習訓練のポイントと手立て

低学年
○生活経験を思い出しながら、事項や事象をよく見ることができるようにさせる。
(○遊ぶ経験を想起させる。
(○日常生活の中から類似物を見つける。
(○身体のものの中から類似事象を想起させる。
(○示唆や提示に必要な事項について類似点、差異点、相違点、差別点等について考えさせると。
(中学年に同じ)

中学年
○生活経験・先行実験と事項、事象と事項を比較しながら、追求していく内容をつかむことができるようさせる。
(○身近なものの中から類似事象を想起させる。
(○示唆や提示に必要な事項について類似点、差異点、相違点、差別点等について考えさせる。
(低学年に同じ)

高学年
○生活経験・先行実験と事項、事象と事象を比較しながら、追求する視点を明確につかむことができるようにさせる。
(中学年に同じ)

低学年
○事象をよく見ながら調べさせる。
○活動をよくさせさせる。
○多様な活動により器具の使い方を覚えさせる。
○五感を大切にする。

中学年
○事象や条件をできるだけ単純にして調べさせる。
○多様な発想を生み出せるような条件設定をしてやる。

高学年
○学習で使用する基本的な器具の名称や正しい使い方ができるようにさせる。
○実験や観察のめあそびしっかりつかませ、解決するための方法を考えさせる。
○実験や観察の基本を覚えさせる。

本校理科教育における学習意欲の発達要素

① 難解のやり方で進め方
   がわかりているとき

② わかりにくい学習をわかりやすく教えてくれるとき
① 勉強のやり方や進め方
がわかるとき
② わかりにくい学習をわ
かりやすく教えてくれる
とき
③ 実験や実習したりして
体を動かす学習のとき
④ 好きな友だちや同じ意
見を持っただもたと、グル
ープで学習できるとき
⑤ 疑問や問題点が解決で
きたとき

〇 運動活動や導入段階での疑問や考えを報告を交換できる話し合いの場
（活動ねらいの修正・深化発展）
〇 再実験・再観察の場（ねらいの修正、追求活動の深化・発展）
〇 五感を人間にする。
〇 事象や条件をできるだけ単純にして調べさせる。
〇 多様な発想を生み出すような条件設定をしてやる。

〇 練習（補助）指導の位置付け
〇 学習不成立の場合
（つまずきの原因と対応）
〇 活動の遂行子どもへの対応
（つまずきの原因と対応）
〇 活動があやしく終わる子どもへの対応
（活動の見直しと整理から、見つけたこと
や疑問点などをまとめをしたりする。）
新つな追求したい課題を考えて行事たり、
活動を深化・発展させる内容を見つけさ
せる。）
※ 対象 1. 全体 2. 小集団
3. 個人

〇 まとめ
（収束・まとめの段階）
〇 結果・わたったこと・感想等を表現する場の設定
〇 話し合い
〇 記録（作文・絵・手紙）
〇 身体表現（低学年）
※ 個人・集団ともかわりを大切にし、齋い集
会に参加したい。

〇 運動の索課題を示唆・提示する場の設定
（更に発想し、発想し、発想しになるような意欲が高まる示唆・提示）
〇 学習で使用する基本的な器具の名称や正しい扱い方ができるようにさせる。
〇 実験や観察をしっかりつかさし、解決
するための方法を求める。
〇 実験や観察の基本を覚えさせる。

〇 明けるの観点を明かにし、必要条件を整えて調べさせる。
〇 学習で使用する器具を正確に操作させる。
〇 実験・観察の目的に応じて器具を選び・工夫して
使わせる。
〇 実験・観察の視点を明かなにし、よりよい方法を
考え調べさせる。
〇 多様な発想を生起しご活発させる。

〇 くり返し活動させながら、きまりを見つけるようにする。
〇 見つけたことを適切なことばや身体表現を伝えられ
るようにさせる。

〇 実験や観察の結果から分かったことや感想等を簡
潔に自分の言葉でまとめることができるようにさせ
る。
〇 必要に応じて、科学的用語を用いてまとめられ
るようにする。（含、図示）
〇 だちや他のグループの発表をもとに、自分の考
えや意見を深めたり修正したりできるようにさせ
る。

〇 実験や観察の結果をもとに、箇条を立てて分かっ
tたことや感想等をまとめることができるようにさせる。
〇 適切な科学的用語を用いてまとめられるように
させる。（含、図示）
〇 だちや他のグループの発表をもとに、自分の考
えや意見を深めたり修正したりできるようにさせ
る。
『絶望の果てに』学習プリント

今まで、自分の命をどのように感じてきましたか。

氏名（H. A.）

両親が今まで色々大変な思いをしてここまで育ててくれたから、ただ悲しかったり、いや
な事があったから死んでしまううえ、かんじに自殺をしてしまったら、自分は楽になるかもしれません
ないけれど、むわりの人達にとってはとても悲しいことになる。それに生きたくても、生きられる
ない人たちがいるのだから、生きられる人はつらい事があったらぐいにくじけないで、精一杯生
きて、命を大切にしなければならないと思う。

氏名（Y. T.）

生きたくても、生きられない人や星野さんのように体が不自由な人などの事を考えると、親か
ら授かった大切な命。この一生をせいいっぱい生きたい。それに、けっして自ら自殺などがた
いにしない。命というのは、自分だけではないのだ……という事も。

氏名（M. Y.）

もし、自分の命をむだにして捨てたら産んでくれた母。それに一生懸命世話をしてくれた家族
の人達が本当に悲しむと思う。育てられ、お世話いただいた人達のためにも、自分にあたり
られ一つの尊い命をつとめてはいけないのだと思う。本当に「生きる」と言うことは、何よりも
すばらしいと思うことが深く心にした。

氏名（Y. O.）

ぼくの命は親からもらった大切な物だ。ぼくは、親に、ぼくをうんでくれてかんしゃしている。
ぼくは、死にたないなんて思ったことは一度もない。じきに悩んでいたら、親にもうしきれない。
だから、かいごすれば、かんしゃしてくれたり、いじつれいてくれたりしてくれる。だから、
自分の命は、自分だけのものではなく、みんなのものだと思う。

—82—
Ⅶ お願い

足利市立尾野南小学校長 木村 健

本日はお忙しい中を、子供たちの授業参観にお越しくださって、誠に有難うございました。

子供たちもいつもとくに、張り切って授業に取り組んでいたようです。授業を見て感じたことや、学校に対するご意見・ご希望などがございましたら、どんな細かいことでも結構ですので、後日子供の手を通じて相談までお寄せくだされば有り難いと思います。十分参考にさせていただきたいと思います。

おあつかえなければ 氏名（  ）

1 本Eの授業についてのご感想・ご意見・その他について

________________________________________________________________________

________________________________________________________________________

________________________________________________________________________

________________________________________________________________________

________________________________________________________________________

________________________________________________________________________

________________________________________________________________________

________________________________________________________________________

2 学校に対してのご希望・ご感想・その他について

________________________________________________________________________

________________________________________________________________________

________________________________________________________________________

________________________________________________________________________

________________________________________________________________________

________________________________________________________________________

________________________________________________________________________
授業でし
クラス一

先生,

なにより
教えられ
二人の

犯罪の
いて知っ
絶望のど
ら、どう
に嘘が
痛い役分
さんが比

授業の
私も前の
たことを
道徳の

「道徳
間になっ
半々に分
まで一緒

星野富
で、最初
取り込み
持ってい
ひとつ
がこれから

(1) 授業後に寄せられたご意見・ご感想

授業の後についてのご意見・ご感想・その他について

だいじな時期に命の尊さを子どもたちに、考えさせて下さった今日の授業は、いつまでも心の中にしまっておいてほしい。また、五体さんがいる体を持って、親の愛情をそそがれ。それはの

人見守られている幸福を感じて、これからの人生いよいよな壁にぶつかったり、逆境に立っ

た時、今日の星野富弘さんの事、命は自分だけのものではないという事を思い出してのりこえて

行ってもらいたいと思いました。また子供ばかりでなく、親の私としてもあらためて生きるとい

う事を考えさせられました。

いつもながら、先生の授業は心に残るものがありますが、特に今日の授業は、親子で心の勉強
をさせてもらいました。ありがとうございました。

父母氏名（K. K.）

とても印象に残る学習でした。山田君の戦もそうですが、言葉なんかくらいの為、先生や皆の

言おうとしている事が伝わってきました。菊地さんの言うように本当にいい時期に命の尊さを

具体的に学習して戴き、ありがたいと思いました。

これから困難にぶつかった時、きっと今日のこの学習を思い出して、のり越えてくれると思い

ます。

又、先生と子供が一体化して心が通じ合えた時間が持てたことをうれしく思いました。

父母氏名（M. ）

生きるという事について改めて考えさせられた道徳の授業でした。友情をおさえきれなくて涙
を流す人もいました。私もその一人ですが……。

きっと、子供達も心に残る授業だっただろう。

今度のテーマは、心は思っていても文章で書いたり、子供と一緒に考えて考えたりする事

は、ちょっと造りが悪いテーマと思った思います。しかし先生がうまく引き入れてくれたおかげ
で、親は子供をとうとう思い、子供は親に感謝する気持ちを再認識できたと思います。まだま
だ幼いと思っていたが子供が先にある間に六年生となり、心身共に成長したことに喜びを感じ
る事です。中学校へいくといろいろな苦難にぶつい食べる事が多く、こんな時は今度の道徳の

授業の事を思い出してたくましく育ってくれる事を願います。

父母氏名（Y. T.）

道徳の授業を親箑ていただいた事は私にとって初めての事でしたので、とても楽しみにしてお

りました。授業のテーマと流れは前を知ってお知らせいただいておりましたが、今の子供達に視点

考え方に教えられたような、そんな一時間でした。親の無償の愛や思いをこれまで追求し追求
していく内に子供達が素晴らしい発表を聞いてこちらの目黒も熱くなり、心打たれた素晴らしい

-84-
授業でした。こんな授業をこの一クラスだけのものでなく、全校一斉で経験できる（せめて2クラス一緒に）よかったように思いました。

父母氏名（M. I.）

先生、子供、親がひとつになっての授業参観、とてもなごやかな家庭での団欒のような風景。
たとえ先生のあたたかい熱意のある授業に、改めて親子共々生命の尊さ、心のあたたかさを
教えられたと思います。私を生んでくれた親親に感謝したいと思います。
二人のおかげで昨日の授業参観がありました。先生、ありがとうございました。

犯罪の多い今日、道徳の時間とあって心にあついものを感じました。子供に前日、星野さんにつ
いて知っている、又は本で読んだ事があると聞きかえ家の者は無知でした。身体が不自由になって
絶望のどん底に落ち、やけになるのは当然の事と思います。もし私が子供が此の様々な事になったら、
どうしていたでしょう。夜子供と話し星野さんの実際を考えてさせられました。子供は授業中
に唯我満ちて何も受けなかったの、と言いました。私も同感でした。お母さんは子供の気持ちを
痛い程分かり、其の優しさが子供の生きがいを再び盛りかえらかしたのだと思います。世界中のお母
さんが此の様に子供の心をかかったら、又痛かったかと思いました。

授業の中で息していた子がいましたが、とても感受性が強く、すばらしい子だと思いました。
私も前の学校から個展のパンフレットを見て、子供と一緒に見に行き、絵に感動しながら見
たことを思い出し、つた訴えんとしました。

道徳の授業のことは、きっと皆の心の中に残っていくと思いました。

父母氏名（A. N.）

「道徳」という事で、いつもと違った授業になるのでは……と期待しての通り、素晴らしい時
間になったと思いました。ただ、残念な事に、4年生にも子どもがおりますので、どうしても
半々に分けるようなになっています。「道徳」という授業ですって、できることなら最初から最後
まで一緒になって考えていきたいものだと、つづくと感じました。

父母氏名（K. S.）

星野若弘さんは、私も好きな方でしたので、感慨深く拝見しました。弟とかけもちでしたの
で、最初から最後までは、しっかり見られませんでしたが、1時間の授業の中での、子供たちの
取りくみの際には頭が下がりました。子供たちは、どうしてもいい受容器（うけとめる心）を
持っていて、スゴイと改めて思いました。大人の私も、自分の受容器をいい状態にしておく努力
を惜しんできていなかったと反省させられます。

ひとつ前のことを越えた方たちの、大きさを感じました。私も、そして子供達にも、色々な波
がこれからあるでしょう。その時、それをどう越えるか。そして、どう生きるか、そういう力を

−85−
感動しました。
私の思っていたよりも、とても大人で、生命の大切さ、人の心をおもいやりの気持ち、考えなど、素敵な心を持っているのに嬉しく思い、又、おどろきもありました。
6年生、このような有意義な授業を受けられた事、又参観出来た事、本当によかったですと思います。
※私の心の中を開いて見て頂きたいくらい感動しましたが、文章に表す事が苦手の為、うまく表現出来ません。残念です。申し訳ありません。

父母名（O.）

五体満足で、何の不自由もなく、生活しているわが子は、四肢不自由なため口で絵を描いている弘弥さんを知って、さぞ驚いた事でしょう。苦しいが努力次第で何でもできるという事が分かったと思います。又、生命の尊さも…。母親の子供を思う気持ち（すばらしいですね）と、弘弥さんの強く生きているという姿。とても感動してしまいました。家に帰っても、夕食時に、この話題で持ち切りでした。本当にすばらしい授業ありがとうございました。

父母名（M. Y.）

親子で話し合う機会が少なくなっている時に、昨日の授業参観は、たいへん勉強になりました。わが子も、親にされることをしたり、反抗期になったりする時がありますが、星野さんの気持ちと同じように心の中では、親に対する申しわけないという気持ちがあることがわかりました。これからも親子で仲良く何事も話し合ったり、相談し合って過ごしていきたいと思っております。

父母名（S. S.）

とても感動しました。
子供達にも、これから中学、高校となっている事にぶつかっていきますが、今日の感謝を忘れられないです。

父母名（T. Y.）

当日は学年の授業参観ということで、放課後であつていた下学年の先生方にも見て頂いた関係で、ご意見を寄せて頂いたので紹介しておきたいと思う。
○母親の無償の愛、と書くとすばらしいが、母親が子どもをはじめて抱いた時、子どものけがの時、お母さんの感想ではなく、アンケートを読んで、常々、自分は親不幸者だと思っているが、母も気持ちが変わる気がした。今日の授業を見せていただいて、子どもといっしょになった
います。

A.)

考察

ないと思

のため、う

命を組みにしない。という事の意味の広さ深さを私も考えさせられた。自分を大切にし、他も
大切にする、大切な子どもをあずかっているんだなあということを思い出し、自分の職につ
いてとても責任を感じた。

氏名（I. S.）

生命の大切さを本当に感じた授業でした。
子どもでも深いところまで感じることができるのでと思いました。
教師としても、自分の子どもの母親としても、生命の大切さ、子供の存在の大切さを折にふれ
話し、子供に伝わるようにしていきたいと思います。
授業を見せていただいて、ありがとうございました。

氏名（T. Y.）

「絶望の果てに」の資料の活用はよかった。子供が富弘さんの投げやりな言葉の中、心の中を
しっかり読みとれていたというのは、すばらしい。
感動しきりに、涙になってしまったが、この場面は冷静に命の大切さを、じっくり考える（泣
かないといけないのだからあってもよい。私、ハンカチをもらっていなかったため）
両の生の声、いかに子供に訴える力があるか、特に教室という所では、今日、また新たに感じ
ました。
よい授業はいつまでも心に残り（私も中学生のとき、道徳の授業で1つあります）苦しい状況
に置かれたとき、ふと思い出し、生きる力となって生きてくると思います。道徳の授業の話し方
等、大変勉強になりました。ありがとうございました。

氏名（I.）

「生命」に対して、これまでまっ向から考えさせられる授業に、未だかつて出会ったことが
なかった。感動させられた、というのが実感です。
生命の尊さ、言葉の上では、簡単ですが、いざ、心に訴えかけると、今日の様な授業
（授業という形容がふさわしくないが）の設定が大切だと思う。（特に、親と子の関係という点）
子どもの様子より、自分自身の「生命」に対する考え方をふり返るきっかけになったような気
がします。

氏名（H.）

－87－
2 学校に対するご希望・ご感想・その他について

今回の学年部会はテーマ等、実のあるもので、深く考え心に残る時であり、出席者も多く有意義でした。私が今まで出席させていただいた会の内でも数少ない、充実したものです。特に先生方の教育におけるポリシーが胸打つものがあり、人間的個性を私の感性まで理解出来、明るい気持ちが持てて、素晴らしいと思いました。もう、残る月日も短く親子、この小学校を卒業させていただくのが、非常に残念です。現在の先生方の情熱を持ち続けて、より良い毛野南小学校の未来の為に御尽力下さいますようお願い致します。（血の通った教育に拍手）

授業参観に按従は、ある意味では難しいのはと思いますが、先生方も親子もいっしょに感じ、考える授業、すばらしいと思います。

子供たちに学ぶところ、またまた多いありです。色々な試みありがとうございます。

道徳の授業参観ということで、大へん良かったと思います。親子で考えさせられる点がたくさんありました。これからも、授業参観により入れて欲しいと思います。

授業参観に対しての校長先生、教頭先生の父兄に対する思いやりの心がひろがりと感じ、うれしく思います。特に人数いっぱいで教室に入れないている父兄に対して中に入れる様、配慮して頂き有難うございました。
これからも、家庭、学校、地域で一体となり、子供達の教育に努力していきたいと思います。

Ⅸ 考 察
(1) 我が子に対する意見調査のお願いでは、36名中23名（64％）の回収率にとどまったが、授業後の感想については出席者の93％、28名の方々から参観後の感想が寄せられた。

そのほとんどが、
・親子で心に残る授業になり、今まで必要感に迫られてもタブーと考えていた問題に対し、これからは折りにふれて茶の間でも気軽に話が出せるように思え、本当にありがたかった。
・もうすぐ中学生という時期に、命の尊さを具体的に学習して頂き、本当にありがたい。これから先、困難に遭遇したとき、きっと今日の学習を思い出して、頑張ってくれると信じている。
・誤を流す子供の多いことに感動した。私もその一人であるが、「現代っ子」と、とかく非難の対象になりやすい子供があれほどまでに感動することに、深い感銘を受けた授業だった。

というような、有り難い内容ばかりであった。
これらの感想を考えると、親が子供に話さなくてはと思いつつも、思春期がまもなく開催される事には、やむを得ず感じているのが事実であろう。それらを考えると三者一体の授業の持つ意味は、かわり知れない大きな家庭療養になるであろう。

(2) 授業の中で30名中29名（91％）の児童が、感動に耐え切れず涙を流したと言っている。参観者の父母30名中、半数以上の方々が目を真っ赤にしていた。

子が親を思う涙、そして親が子を思う涙を共通の話題で流した。このことは何にも勝る、親子の情愛の成せる技であろう。

(3) 授業準備に時間がかかるが、親の意識・子供の意識調査をしたことが、より大きな効果を上げた。

(4) 授業に父母の参加を取り入れたのは、一応成功であった。しかし、価値によっては1時間を学習過程への具体的位置付けをどこにするかが難しい。

(5) 星野さんの生き方が余りにも感動的であるため、たくさんの児童がすすり泣き、声を上げて泣いていた。それらを見ながら授業を進める辛さ、残酷さに胸を尽くしがたいものがあった。

親・児童のみならず、教師も声を詰まらせている面が多々あった。

(6) 道徳の授業設計をする上で、資料を選ぶ困難さは誰もが感じていることである。しかし、本当に身近な生活の中に、実情らしい資料のあることを示すことができた。

(7) 「伝え子の自殺」から切実に迫られ、北中学校の研究資料を参考に、自分なりの工夫を添えたつもりである。

辛い授業ではあったが、「やっとよかった。」と心底から思える、心に残る授業の一つになることに違いない。

一読し、ご意見、ご叱責がいただければ、幸いです。
評

新学習指導要領における道教教育改善のための重要な視点として、児童生徒の「内面に根ざした道教の育成」という点がとりあげられました。これは、道教の指導においては、最終的には道教的実践のできる児童生徒の育成が目標であり、その実践を可能にするためには、その行為が自主の内面の力として道教的実践力によって動機付けられるようにしなければならないという点を強調したものです。

本実践記録は、「生命尊重」を主題とした1単位時間の道教の時間の指導事例ですが、児童の内面に根ざした道教原理に基づいた実践例として、多くの示唆を提供してくれています。

ここに紹介されている授業は、父母を対象とした公開授業という形で実施されました。副題に「父母・教師・児童が一体となって進める生命尊重の授業」とありますが、この授業では、児童の心情に極めて強いイントパクトを与えているのみでなく、参観した父母に与えた影響も大変なもので、授業に臨んでいた三者が、文字どおり、一体となって大いなる感動に浸ったようすが推測されます。こうした成功をもたらしたのは、資料選定が適切であったこと、豊富な補助資料が準備されたこと、児童及び父母を対象とした授業にかかわる意識調査を実施しその結果を授業で活用したこと、などによるものと思われます。特に、父母の果した役割は大きいと言えましょう。道教教育においては、学校と家庭・地域といっしょの子どもの人間形成について、それぞれの教育機能を発揮しあって協力していくことが必要性が叫ばれていますが、本事例には、こうした「家学連携」の視点からの成果も見られます。

今後とも、こうした研究実践を継続されることをご期待申しあげるとともに、他校におきましても、本実践記録を自校の道教教育の一層の充実のために活用されることを期待します。